乗用管理機を一同に集結

サンテパルク田原で初開催

やまびこ防除機フェア

永尾社長

「共立」「新ダイワ」「エコー」ブランドを持つ、やまびこ＝永尾慶昭社長、東京都青梅市末広町1－7－2＝の販売会社・やまびこジャパンは6月21日、『やまびこ防除機フェア』を愛知県田原市のサンテパルク田原で開催した。やまびこが誇る防除機を一同に集結。これだけの乗用管理機が揃い、乗って比べる機会は稀とあって、強い関心を示していた。

稲作や畑作での防除で初開催となった。効率的な作業を提供する乗用管理機をはじめ、機械化の難しい圃場での手散布に使えるミニ動噴、野菜・たばこ・花卉などの連作に貢献する土壌消毒機や収穫運搬車などの畑作関連機械や農業用マルチャー、ハウス栽培などの非常時における電源装置として需要を伸ばすLF（同500ℓ）、RVH650（同650ℓ）×2台、そして、待望のフルキャビンタイプのRVHC650（同650ℓ）など。それぞれが試乗できる状態になっていたほか、各種オプションノズルを用意して、細霧・ドリフトレス・除草・灌水といった噴霧パターンデモも実施。充実する共立RVシリーズを存分に体感してもらう構成になっていた。

乗用管理機がこれだけ揃うことは稀で、来場者は試乗や操作を通して使い心地などを感じていた。来場していた63歳のキャベツ農家は、「3年ほど前に入れた。夏場の防除作業は大変で、家族全員が大変な思いをしていた。これなら1回で作業できるから全然違うよ」と話した。

この展示会で弊社乗用管理機の意識付けができれば、と関根真哉やまびこジャパン中部支社営業部長。「ここ渥美地区で発電機など大小合わせて150点以上の機械を展示。その中心となっていたのが共立乗用管理機RVシリーズだ。

共立RVシリーズは、コメや麦、大豆から蔬菜まで幅広い作物や、さまざまなほ場での使用に対して、薬液タンク500ℓ～1000ℓの豊富なラインナップを用意。SNU（散布ナビ）やHST（速度無段変速）、ブーム水平装置を組み合わせることで、規模拡大化が進む中で効率的な作業を実現させている。近年では薬剤被曝の影響を抑えるキャビンモデルも追加している。会場で展示したのはRVH50（タンク容量500ℓ）、RVH500Kと野菜・低床仕様のRVH500K／LF（同500ℓ）、RVはラジコン動噴やホースを引っ張って散布する従来のやり方が続いていたが、5・6年前から本格的に乗用管理機が入りだしている。それもあって、初開催ながら300名近くの来場者をいただいた」「今回最大のポイントにしていたのが事前推進。ここで体感いただき、夏場にかけて行われる各地域の展示会で決めていただければと考えている」と述べた。消費増税が予定されていることも含め、とても有意義な展示会となっていた。

見て触れていた来場者

大小150点以上の製品が並んだ

新社長に伊東徹弥氏

伊東電機

伊東新社長

伊東電機＝兵庫県加西市朝妻町1146－2＝は、6月21日に、株主総会並びに取締役会を開催し、役員人事を決めた。

伊東一夫代表取締役社長は退任し代表取締役会長に就任。後任の代表取締役社長に伊東徹弥氏が選任された。

【6月21日付役員異動】▽代表取締役社長＝伊東徹弥▽代表取締役会長＝伊東一夫。

＝敬称略＝

◇

《伊東徹弥新社長の略歴》1974年7月生まれ。45歳▽97年近畿大学理工学部卒▽97年ITOH DENKI USA, INC.入社▽2002年伊東電機入社▽05年7月取締役▽09年9月同常務執行役員▽12年7月同専務執行役員▽14年6月代表取締役専務執行役員▽19年6月21日代表取締役社長に就任。

デリカ

3.5トン積自走マニア

操作性、作業効率が向上

金子社長

デリカ＝金子孝彦社長、松本市大字和田5511－11＝の3.5t積み大型自走マニアスプレッダ「DAM－354」が好調に推移している。同社の自走マニアスプレッダ〝DAMシリーズ〟はトラクタ牽引が難しい場所での作業に最適。新型は、第4次排ガス規制に対応したエンジンを搭載し、操作性と作業効率を向上させた最上位機種となっている。

自走マニアスプレッダ「DAM—354S」（前）

自走マニアスプレッダ「DAM—354S」（後）

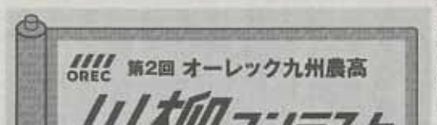
【型式・特長】▽型式（散布部型式）＝DAM－354Y（横型2段ピータ）、354T（縦型4本ピータ）、354S（スーパーピータ）▽特長＝①最大積載量3.5t＝大規模化に対応したDAMシリーズ最大の積載量と最大の73馬力を実現②クリーンエンジン＝第4次排ガス規制に対応した水冷立型エンジンを搭載③湿田など軟弱地の走行に強いクローラ走行方式④HST油圧駆動＝無段変速で快適に操作が可能⑤安全装置付き＝異物等による過負荷トラブル時の破損防止のため、フロアコンベア系にシャーピン（ヒューズ）が組み込まれている⑥床板に樹脂ボードを採用＝自走マニアスプレッダ全型式、床板に樹脂ボードを採用。腐食に強く耐久性が更に向上⑦豊富なオプション＝キャビン：ヒーター、ラジオ付きガラスキャビン。クーラーキャビン：クーラー、ヒーター、ラジオ付きガラスキャビン。クレーン：フレコン堆肥積込み用油圧クレーン。パワーゲート：運搬中の堆肥の落ちこぼれを防ぐ。微量散布キット：鶏糞、土壌改良材等の少量散布用。

【価格】▽型式＝DAM－354S▽散布部型式＝スーパーピータ▽散布幅＝3～15m▽最大積載質量＝3500kg▽最大積載容量＝4.9㎥▽全長×全幅×全高＝5610×2145×2135㎜▽機体質量＝3710kg▽エンジン＝水冷立形4気筒73ps▽変速段数＝HST無段変速▽最高速度＝前進9.1、後進9.1㎞／h▽希望小売価格＝950万4000円（税込）。

オーレックス

農への思い五・七・五

九州農高川柳コンテスト


第2回 オーレック九州農高 川柳コンテスト

「草と共に生きる」をブランドコンセプトに掲げる草刈機メーカーのオーレック＝今村健二社長、福岡県八女郡広川町日吉548－22＝は、九州の農業高校生を対象に川柳コンテストを開催する。

次世代の農業を担う生徒たちの活動を応援し、「農」が持つ魅力を多くの人に知ってもらおうと、創業70周年を迎えた昨年に初めて開催。31校から5022句が寄せられ、グランプリに「携帯の 予測変換〝の〟は農業」が輝いたほか、優秀賞に「夏野菜 今日も水かけ 話しかけ」「実る頃 40℃ 野菜作りは 恋のよう」などが選ばれた。

今年のお題は「大好き農業」。水やりや害虫駆除など農業と向き合う若者の感性が光る作品を募っている。

結果は、「草の日」の9月3日に同社ホームページで発表。グランプリ1句、優秀賞8句（各県1句）、学校賞1校を選び表彰する。グランプリ受賞者は、10月13日に福岡市で開かれる「九州農業水産高校収穫祭」で表彰する。

マルナカ

バッテリー芝刈機

大風量のブロワーを拡販

バッテリーブロワー

マルナカ＝真鍋雄一郎社長、京都市南区吉祥院＝は〝ELETECA 40Vシリーズ〟の、36Vリチウムイオンバッテリー、ブランレスモーター搭載のバッテリー芝刈機「EMR40T」、バッテリーブロワー「EBL40T」の拡販に注力している。

バッテリー刈払機のポイントは、36Vリチウムイオンバッテリー、ブラシレスモーターを採用、1度の充電で約50㎡の作業ができるところ。

その他の特長は①集草箱は40ℓと大容量②パワフルで静かな作業ができ、早朝でも騒音を気にせず、スムーズに余裕のある作業が行える③刈高はレバー操作で簡単に5段階調整（30～70㎜）可能④刈幅は、370㎜と作業のしやすさにこだわった設計。⑤手押しハンドルの高さも調整でき、また人間工学に基づいて設計されている、ソフトグリップ付き⑥持ち運びの際には本体中央部にあるグリップで、楽に移動できる⑦収納の際には、ハンドルをたためばコンパクトになり、少しのスペースで充分収納できる。

バッテリー芝刈機EMR40T

【EMR40T主仕様】▽バッテリー電圧・容量＝36V・2.5Ah▽刈幅＝370㎜▽刈高＝30～70㎜（5段階調整）▽本体重量＝13・6kg。

バッテリーブロワーは36Vリチウムイオンバッテリーを搭載。ブラシレスモーターの採用で静音。しかも重量は2・93kgの軽量タイプなので、楽に快適に作業が行える。

エンジン式25ccと同等の大風量（14・2㎥）を実現。濡れた落ち葉や土ころでさえ吹き飛ばす。また、オーバーモールド式のハンドル採用により、グリップのフィット感が向上。

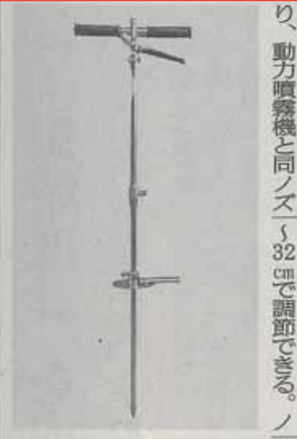
【ブロワーEBL40T主仕様】▽バッテリー電圧・容量＝36V・2.5Ah▽最大風速＝45m／秒。

〝ELETECA〟シリーズには、このほか、刈払機・チェーンソー・ヘッジトリマーがある。

永田製作所

ポアーノズル拡販

動噴専用の液肥注入機


ポアーノズル「SDX型」

スプレーノズルのパイオニア、永田製作所＝田中寿和社長、大阪市西淀川区千舟1－5－41＝が、土壌にノズルを突き刺すだけで液肥の注入や土壌消毒ができる「ポアーノズル」の販売に力を入れている。

主にぶどうなどの果樹や樹木分野で使われており、動力噴霧機と同ノズルをつなぎ、樹勢の衰えた根の周辺に液肥を直接注入することで木を活性化する。

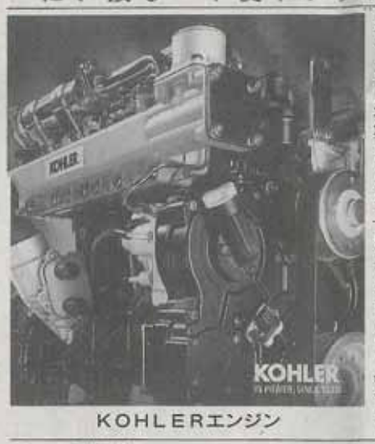
「SDX型」は全長930㎜、重量1280g。ワンタッチレバー式で、注入時はレバーを握るだけで4方向に勢いよく噴射する。土壌の差し込みは手動で、深度は17～32㎝で調節できる。ノズル中間部には空気取入口があり、水圧により自動で取り込んだ空気を液肥とともに土壌に送り込む。土壌に酸素が行き渡り、根が活性化する効果があるという。価格（税別）は2万7300円。

深度調節が可能なスタンダードタイプの「S型」（同2万2000円）、210㎜の一定間隔で同時に2カ所注入できる「NW型」（同3万5800円）、注入ピッチや間隔（100～300㎜）、深度調節が可能な「WB型」（3万9500円）。

1台からオーダー可

マルマテクニカ

高性能ディーゼルエンジン


KOHLERエンジン

最新型ディーゼルエンジンについて、数kWから129kWまでラインナップし、一台から販売し、きめ細やかなサポートをしているのがマルマテクニカ＝神奈川県相模原市南区大野台6－2－1＝のエンジン課だ。

同課が販売しているイギリスの建機メーカーであるJCB社製エンジンは、頑固なまでに頑丈で建設機械や油圧パワーパッケージに最適。また、KOHLER社製エンジンは、汎用性やオプションの種類の点で優れており、排ガスは極めてクリーンでオフロード法に対応（少数特例）している。

農林業機械向けとしてはKOHLER／KDIシリーズ（42～55kW）がオススメ。デンソー社製のコモンレールシステムを搭載し、DPF無しで排ガス規制をクリア。エアフィルターやラジエタがセットになったコンパクトなパッケージもあり、新製品開発時の設計変更や、厄介なヒートバランスの調整が楽なことなどから関心を集めている。

出荷されるエンジンの35％は農業マーケットというKOHLER社製ディーゼルエンジン。発電機、溶接機、建設機械、林業機械、ポンプ、コンプレッサ用としても活用されている。

マルマテクニカを経由したディーゼルエンジンを搭載した製品も続々登場しており、多方面から高い評価を得ている。その他、草刈機械などの多用途で利用できそうなので、新規設計やエンジン載替えの際には検討してみてはどうだろう。

問合せ先は同社エンジン課の安江氏、山口氏まで。電話042－751－3868。

補修用テープ好評

住化プラスステック

住化プラスチック＝東京都中央区日本橋＝の農業用フィルム補修用粘着テープ「カットエース」G（農業用フィルム補修用一般）・BW（牧草用フィルム補修用）・BBL（同）が発売以来、耐久性、耐候性に優れていると人気を博している。

タカキタが新体制発表

タカキタ＝松本充生社長、三重県名張市夏見2828＝は6月20日、定時株主総会・取締役会で役員人事を行い、新体制を発表した。

【新体制】▽代表取締役社長＝松本充生▽取締役専務執行役員＝松田順一（軸受部担当兼経営企画室長）▽同＝沖篤義（管理本部長）▽同常務執行役員＝益満亮（製造開発本部長）▽同執行役員＝川口芳巨（海外営業本部長）▽取締役＝松村篤樹（常勤監査等委員）・新任▽社外取締役＝桐越昌彦（監査等委員）▽同＝沖恒弘（同）・新任▽執行役員＝岡嶋弘（製造開発本部開発部長）▽同＝田中敏彦（軸受部長）▽同＝山中智昭（北海道統括室長兼エコフィード部長）▽同＝平田武史（海外営業本部副本部長）▽同＝梨原弘勝（内部監査室長兼品質保証室長）・新任▽同＝藤澤龍也（営業本部長兼本州営業部長）・同。＝敬称略＝

林業用アイテム拡充

モンベル

秋冬のフィールドウエア

フィールドウエアの展示コーナー

モンベル＝辰野岳史社長、大阪市西区新町2－2－2＝は6月25日から3日間、2019年秋冬商品の展示会を東京都大田区のTRC東京流通センターで行った。

2014年からスタートした一次産業（農林水産業）に向けたフィールドウエアカテゴリーを拡充。今回はハードユースに耐える漁業・林業用のアイテム&ウエアが大幅拡充された。

林業用では、バックパックを始めとした耐久・収納性に優れたアイテムを多数追加。併用することでより真価を発揮することを訴求した。

【製品特長】▽ロガーパック（10ℓ／20ℓ）＝主に林業での作業に適したバックパック。林業用の（税別）各2400円、2800円。

漁業では漁業用「フィッシャーマンピブ」が初登場。防水性に特化した一般的な漁業用ピブに比べ、蒸れを放出する優れた透湿性を備えた軽量なピブ。すっきりしたシルエットながら、厚出のインナーを重ね着することもできる。

大阪では7月2、3日にモンベル本社で開催。

ABA

廃プラ問題追い風に

総会で普及促進等を決定

普及推進の事業計画を決めた総会

農業用生分解性資材普及会（略称ABA・池本克己会長）は、6月25日、2019年度通常総会を東京都千代田区の神田ニューセントラルホテルで開催した。

総会では、平成30年度事業報告・決算、今年度事業計画・予算案などが審議され、承認された。

池本会長は「販売数量はかなり伸びる環境下にあり、廃プラスチック問題への対応など、私たちの普及活動にフォローウインドが吹いているのではないか。今後は更に一層普及活動を推進していきたいと思う」と述べた。

事業計画では、普及推進活動として、①生分解性マルチの普及マニュアルの更新②統計調査を隔年から毎年の実施に変更③ABAセミナーの開催（2020年3月予定）④専門紙を通じた生分解性マルチの利用現場を紹介する普及広報⑤ホームページによる情報発信⑥新規会員の拡大⑦普及推進委員会を随時開催して会員・賛助員、関係者と普及拡大策の検討を行うことなどを報告した。また、生分解性マルチ未利用分野に対応した製品開発について、現在、環境省の2019年度補助事業に応募しており、これが採択された場合に、これまで生分解性マルチが利用されていない栽培方法や作型に対応した製品の開発と実用性実証を行う委員会を設置して事業を推進することを決めた。

会員の異動では、前年度に日本合成化学工業が三菱ケミカルに吸収合併されたことに伴い退会し、稲畑産業、大倉工業の2社の入会により年度末会員数は14社。今年度はケミテックの事業譲渡を受けてGSIクレオスが入会した。

ユニ工業のテープ

ユニ工業＝栃木県下都賀郡壬生町＝のビニールエチレンの特殊織物を基材に耐光性のある強粘着のアクリル系粘着剤を使用していること。